



火星戦線異状なし（ビッグ・ウォーズ・パートII）
荒巻義雄
徳間書店（4/10刊・¥980）

二十四世紀——興隆を極め太陽系全土を版図に収めた人類の下に、かつての神々が帰還する。しかし、人類はその支配権を認めようとせず、ここに人類対神の一大戦争「ビッグ・ウォーズ」が巻き起こる。本編は、そのビッグ・ウォーズ九部作の第二部である。

主人公マクドナルドは、水星奇襲攻撃の戦傷をいやすため、病院都市に赴く。そこで、金星で知り合ったレイナの噂を聞いた。彼女は、既に地球へと救出されたというのだ。洋上に建設された天国都市、惑星軌道に浮かぶ宇宙群島——レイナを追ってさまよう彼は、その中で、かつての戦友・浄土一成と、世界を統御する電子頭脳サンタ・マリアという、二つの付きまとう影に気づく。やがて、神々との戦役最大の、火星戦線が活発化する……。

“神は死んだ”と、ニーチェが叫んで以来、二十世紀は、神々不在の世紀といわれる。

著者・荒巻義雄は神の概念により規制を受けない人類の“精神的進化”を、神対人間の戦いに象徴し表わそうとする。『幼年期の終り』に匹敵するテーマの作品だが、未来世界の描写や、アクション場面等が、物語に豊かな彩りを与えている点も見逃せないだろう。（俊）